

令和元年度健康づくり指導者セミナー（行政コース）

研修会実施報告

【参加状況】

●日時 11月14日（木） 10:00～16:00

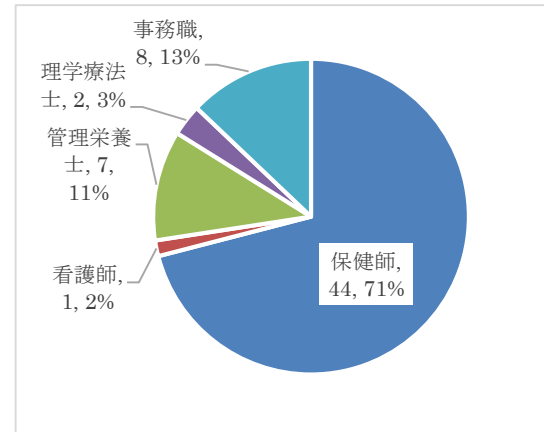
●参加人数 62人（男：9人 女：53人）

●所属別（人）

県	保健所	市町村
1	11（9か所）	50（34か所）

●職種別（人）

保健師	管理栄養士	看護師	理学療法士	事務職
44	7	1	2	8



【カリキュラム】

テーマ

様々な政策や制度を上手に活用して、わがまちの健康づくり・介護予防を円滑に進めよう！

時間	内 容
10:00	オリエンテーション
10:10 (100分)	講義「地域・職域連携や地域資源の活用等、わがまちの健康づくり・介護予防を円滑に進める環境整備について」 あいち健康の森健康科学総合センター センター長 津下 一代
11:50	昼食
12:50 (80分)	事例紹介「地域・職域連携について」 事例① 宇都宮市保健所 健康増進課 佐藤 聖美 事例② 清須保健所 総務企画課 杉山 彰良 事例③ 全国健康保険協会 愛知支部 企画総務部 鈴木 祐子 事例④ 愛知産業保健総合支援センター 早川 明子
14:10	10分休憩
14:20 (20分)	情報提供 「高齢者の特性を踏まえた健康度評価について」 あいち健康の森健康科学総合センター 健康開発部 副部長 早瀬 智文
14:40	10分休憩
14:50 (70分)	グループワーク「講義を聞いて気づいたこと、学んだこと、参考になったこと」、「すぐに取り掛かること」 発表、まとめ・質疑応答
16:00	まとめ、アンケート記入

【研修会の様子】

本年度は「様々な政策や制度を上手に活用して、わがまちの健康づくり・介護予防を円滑に進めよう！」をテーマに2回目を行いました。

午前は、津下センター長から、地域・職域連携推進ガイドラインの改訂ポイント及び、高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施に向けた内容を中心に講義をしました。雇用延長に伴い、職場の健康活動がより大切となります。企業においては健康経営の取り組みが進んできたが、小規模事業場への対策はまだ不十分であることや、退職後や被扶養者に対して健康・保健サービスが行き届いていないことから地域・職域連携の必要性を学びました。地域・職域連携推進協議会を中心とする体制づくりから取り組み例、評価のポイントを学びました。また、来年度から始まる高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施については、広域連合と市町村が連携することや、高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドラインをもとに、事業の進め方や後期高齢者の質問票を活用し健康支援につなげていくポイントを学びました。

午後の前半は、地域・職域連携に関する4つの事例を紹介いただきました。宇都宮市保健所の佐藤主任保健師からは、地域・職域連携推進協議会の取り組みについて、体制整備のポイント及び、健康課題を明確にしたうえで、すぐに取り組める事業へ繋げていくことを紹介いただきました。清須保健所の杉山主事からは、中小事業所への健診・保健指導の取り組みについて、課題の共有から賛同者を増やし、担当者が自信を持って行い、評価から見えた課題を次へ繋げることを紹介いただきました。協会けんぽ愛知支部の鈴木主任からは、自治体や企業、関係団体との活動及び、企業健康宣言事業や、商工会・保健所との連携事業について紹介いただきました。愛知産業保健総合支援センターの早川保健師からは、貴センターの活動紹介及び、従業員50人未満の事業所に対する地産保の取り組みや、治療と仕事の両立支援等、勤労者への支援体制について紹介いただきました。

後半は、早瀬副部長から、当センターが開発した、高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施にも活用できる後期高齢者の健康度評価を紹介しました。

●講義

「地域・職域連携や地域資源の活用等、
わがまちの健康づくり・介護予防を円滑に
進める環境整備について」



●事例紹介

「地域・職域連携について」事例①



●事例紹介

「地域・職域連携について」事例②



●事例紹介

「地域・職域連携について」事例③



●事例紹介

「地域・職域連携について」事例④



●情報提供

「高齢者の特性を踏まえた健康度評価について」



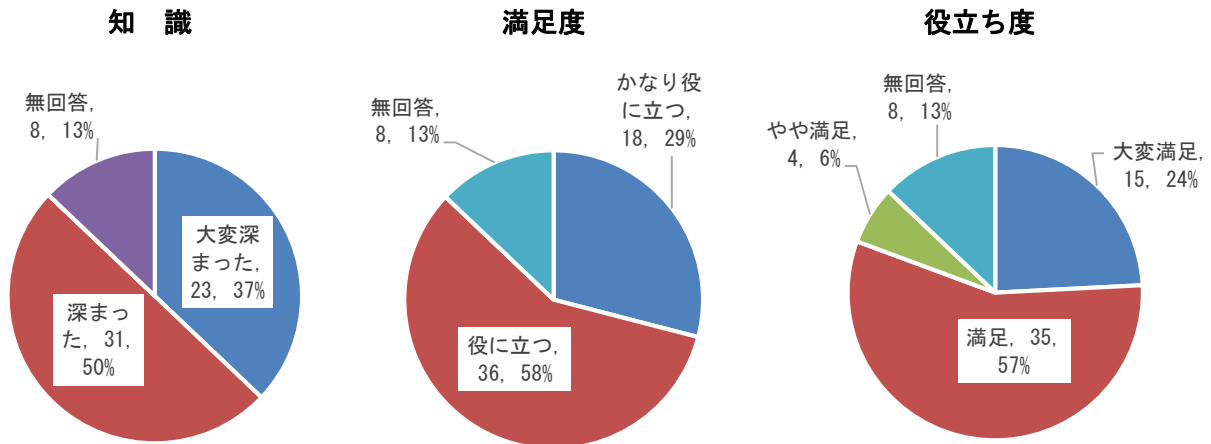
●グループワーク

講義を聞いて、「気づいたこと・学んだこと・参考になったこと」、「わがまちの保健事業を振り返って、課題や改善が必要と感じたこと」、「職場に戻ったらできること、やりたいこと」について個人ワークシートを整理し、その内容をグループで情報共有・意見交換を行いました。わがまち・他市町村の取り組みについて、保健師・管理栄養士・理学療法士・事務職等の様々な立場から、連携の必要性や、新事業への準備等を意見交換し、「わがまち」が取り組むポイントや課題を明らかにしていました。



【アンケート結果】 57名から回収（回収率 91.9%）

1. 全体



【受講者の声】

<地域・職域連携>

- ・ 住民のみとか、国保のみという考えから町全体に目を向けることが大切だと感じた。
- ・ 相手に合わせ、やれることから始めたい。予算がなくても小さなことから実施してみる。
- ・ 職域の現状と市の現状をデータから理解を深めていく大切さを学びました。
- ・ 地域・職域連携について、当市での取り組みを知らないままだったので、戻って勉強します。
- ・ 地域と職域の連携という面で、若い頃からの介入を深めていかないといけないと思った。
- ・ 地域職域連携事例のうち、宇都宮市の事例は今すすめたい方向性がまとまっており、大変勉強になった。商工会の健診も小規模事業所への取り組みには大変有効的と感じた。
- ・ 地域・職域連携について、他部門とも学んだことを共有し、協力を求めたい。
- ・ 地域職域連携について、協議会を開催するだけでなく、協働した取り組みに発展させたい。

<高齢者>

- ・ 自分の課だけではやれることも限られるため、事業を整理し、他課と連携をとりたい。
- ・ 通いの場より、職場に通う方が健康であるということ。今後の高齢者像を見据え、介護予防の提案ができるようにしたい。
- ・ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施をはじめ、重症化予防も年々事業展開と評価の内容が高くなっているので、保健師の技量を上げることが課題と感じた。
- ・ 健康度評価の端末が市町村でも利用したい。

<感想>

- ・ 午前中の講義を踏まえ、様々な事例を聞くことができ、理解が深まりました。
- ・ 全ての世代に対しての「健康への意識づけ」が重要だと分かりました。福祉職の私には初めて聞く単語も多かったですが、とても勉強になりました。
- ・ 改定されたガイドラインを読み込んでいきたい。